

黒滝山トレッキング

山海岸の景色と宗教的な遺物が見られる黒滝山は、竹原にある歴史的な港町・忠海のシンボルです。266メートルの山頂からは、大久野島（うさぎ島）を含む瀬戸内海の島々と、日本の主要4島では最小の四国など、瀬戸内海の絶景そしてその島々を一望できます。本州の広島県と四国の愛媛県を結ぶしまなみ海道も山から見えます。瀬戸内海を一望できる黒滝山の登山道沿いには、たくさんの絶景スポットがあります。

地元の著名な儒教の学者、歴史家、芸術家、詩人である頼山陽（1780–1832）は、この山を登ったことで知られています。彼は夕暮れ時の瀬戸内海の美しい風景を表現するために、山紫水明という表現を作り出しました。

登山口には桜堂と呼ばれる休憩所があり、春に咲く桜の群れが「ホール」を形成しています。

登山道に沿って、1820年頃にそこに置かれた33の石の観音像があります。また2つのミニチュア鳥居が頂上に向かう途中の登山道のすぐそばにあり、その鳥居を潜り抜けた人には幸運が訪れると言われています。

頂上近くには、いくつかの珍しい岩層があります。

登山口の桜堂休憩所までは忠海駅から徒歩約30分。登山口から頂上までのハイキングには約40分かかります。